

他事業者様光引込み線の一束化において想定される課題例

◆新たな添架ポイントを提供した場合においても、添架ポイントの確保が困難な場合は一束化による対応となるが、現在のNTTにおける施工形態より、以下の課題が生じ、運用が煩雑となることが想定される。

【現行NTTの一束化時の施工形態から想定される課題例】

①スパイラルハンガの切縮め

- ・クロージャ等の取付けにあたってはスパイラルハンガの切縮めが必要であり、**事業者クロージャ等の設置の都度、事前準備工程が生じる。**

②自己支持型ケーブルの支持体分離

- ・自己支持型ケーブルを支持体としている場合、クロージャを支持体に固定するため、クロージャ設置の都度、**事前にケーブルと支持線を切裂いておく必要がある。**

④クロージャ類周囲等での光引込線等の取回し、防護

- ・クロージャ、金物等との擦れが想定される箇所では、光引込線等の整理、スパイラルスリーブ等による防護が必要であり、**クロージャ等の設置の都度、相互に整理、防護を実施する必要がある。**また、一束化事業者の増加に伴うクロージャ設置数の増加により、**整理、防護等の工程が増加する。**

⑤光引込線、ケーブル等の布設、撤去

- ・スパイラルハンガ内の光引込線等の布設、撤去は引通し、引抜きにて実施しており、摩擦等による設備損傷が想定される。工事後、期間において**故障が発生した場合に責任の所在があいまいとなる。**(最低限の措置として立会は工事の都度必要となる)

③クロージャの設置

- ・既設のクロージャ類を避けて設置する必要があるため、配線点とお客様引落し点から見た**最適な設置場所に取り付けることができない等の制約**が生じる。
- ・風による影響を回避するため、特にクロージャ類は、その種別(質量、大きさ、形状)、電柱からの設置距離等ごとにダンシング実験等の検証を実施している。**事業者クロージャについてもその種別、取付け位置等ごとに予め検証する必要がある。**

⑥光引込線の固定

- ・光引込線はクロージャ際で一括ほう縛しており、引込み線の布設の都度、切断、再ほう縛が必要である。特に切断時には光引込み線の損傷等が想定される。**事業者ごとのほう縛位置等のルール化が必要となる**とともに、⑤項と同様に**故障時の責任の所在があいまいとなる。**

